



# おたより

代表理事 「こあいさつ」 ……P1

ノーバディズ・パーフェクトプログラム (NP) 部門代表 「NPプログラムをたくさんの親子に」 ……P1

レインボウ・ジャパン代表 「喪失体験と子どもの『こころのケア』」 ……P2

福島県大熊町教育長殿 「全町避難の中で」 ……P3

シラハライティングプロジェクト代表 「育つ時に、赤ちゃんの育ちから学ぶ」ー伊東市親生子育て教育を支援してー」 ……P4

インフォメーション、子ども家庭リソースセンターからのお知らせ ……P6



## ごあいさつ

理事長 福川 須美

東日本大震災と原発事故から5年余り、まだ復興の道遠しという今、今度は九州熊本で大地震が起こりました。何度も強震に見舞われた現地の方々の不安はいかばかりかと、心からお見舞い申し上げます。

ところで、5年間継続した大熊町のスマイルタイムは、諸般の事情で終了せざるをえません。教育長・武内敏英先生からスマイルタイムに寄せる想いを寄稿していただきました。(3ページ)

それぞれの事業はどれも今必要とされているものばかりです。小規模なNPOではありますが、今年度も一歩一歩着実に歩んでまいりましょう。

『ノーバディズ・パーフェクト (だれも完璧ではない)』が注目されています!!

朝日新聞 (全国版) 月曜日の朝刊、『子育て』欄でドメス出版の「Nobody's Perfect」が取り上げられました (2016年2月1日 右写真)。NPプログラム参加中の母親やリソースセンターのファシリテーターへのインタビューが掲載されています。

記者・長富さんは育休中に「ノーバディズ・パーフェクト」を読み、その考え方が気が楽になり、子育て中の方に届けたいと思ったそうです。取材協力をしたセンターも元気を頂きました。NPファシリテーターの皆さん、これからも共にがんばりましょう。



## NPプログラムをたくさんの親子に

NP 部門代表 伊志嶺 美津子

NPプログラムの普及は子育て・親支援の一環としても大変意義があり、CFRCの課題としても努力し務めていきたいと思っています。その一つに、ファシリテーターから「プログラムの実践ガイド」が欲しいという要請があり、昨年からはトポスの会が中心となり企画編集を進めています。今年度末には完成させたいと頑張っています。ご期待下さい。

竹内さんは、センターでNPファシリテーター養成が始ってすぐの第1期ファシリテーターです。地元はもちろん要請があればどこへでも出向いて、後輩とともにたくさんのプログラムを実施、NP普及に努め、後輩育へにも貢献してくださっています。NPをこよなく愛し、トポスの会員としても情熱をもって活動される姿から、私たちもエネルギーをいただいています。今回はその思いをつづっていただきました。



NPファシリテーター養成講座を受講してから、早10年以上経ちました。子育て関係の資格は何もなく、心理関係の知識もほとんどない私は、当初この講座の内容を理解、習得するのに四苦八苦でした。ただ、ただ子育てに悩む親に自信を持ってもらいたい、子育てを楽しんでもらいたい、子育ては何にも増して素晴らしい仕事、子どもを育てる機会に恵まれたことは自分もまた成長できること。そのことを感じてもら

いた一心でこのファシリテーターになることを夢にみしました。しかし現実には厳しく、分からないことばかりでした。その後、自分のために「自己研鑽グループ・トポスの会」のメンバーになりました。そのトポスの会も、もう10年経つでしょうか、メンバーとの繋がりもできました。

トポスの例会では、トレーナーの力も借りて、このプログラムの素晴らしい構造を解説していただきました。アクティビティの意味を考え、自分の体内を通し咀嚼し講座に向かうことも少しできるようになりました。でもまだまだ分からないことだらけ、そんな時は仲間に戻り皆で考えることを基本としています。

しかし、今なかなかこのプログラムの実施が難しい状況があります。費用対効果が悪いとか、託児ありは危険・・・とか。そのような中、前回のトポスの会に岐阜から参加下さったメンバーの方が、周りのママさん達から「NP講座をやりましょう!!」のラブコールと「トポスの会」でもらったエネルギーをもって、とうとう講座開始に漕ぎ着けたのです。そのことを、子ども家庭リソースセンター事務局の川島さんから聞いた時は、「やったー!」と自分のことのようにうれしく思いました。このうれしさをもっと、もっと沢山のひとと共有するためにも、NPファシリテーター養成講座終了後の「トポスの会」への参加者を増やしたいと思っています。

このプログラムは今の日本中の親たちに自分らしい豊かな子育てを見つけてもらうために、そしてなによりこの地に生まれて来た子ども達のために・・・また虐待予防に繋がるプログラムのひとつだと思います。子どもは国の宝である事を忘れないで、これからも頑張りたいと思っています。

2人の孫を持つバーバラより



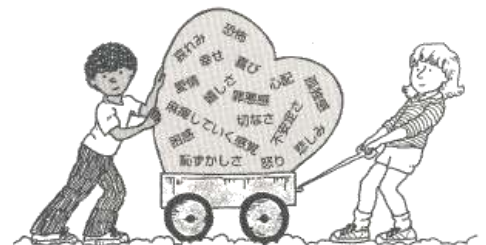
## 喪失体験と子どもの「こころのケア」

レインボウ・ジャパン代表 櫃田 紋子

すべての子どもは、かけがえのない個性をもって生まれてきます。その子どもたちが伸びやかに育つために必要なものは、一人ひとりが大切にされ安心して育っていけるような環境です。

ところが今、日本では離婚・虐待・大きな災害・事故・・・等々が、「レインボウ・プログラム」を導入した10数年前とは比べようのないほど増え続けています。このような状況に因って様々な喪失を体験する子どもの「こころのケア」への関心が高まっています。喪失体験は子どもの成長・発達にとって大きな影響を与えますので十分なケアが必要ですが、ふさわしい環境があれば子どもは自ら回復しようとする力を発揮できるでしょう。レインボウの子どもたちは、悩みを一人で抱え込まないで仲間と共に、ファシリテーターの付添のもとで互いの気持ちを分かち合い、こころを癒し、自信や自尊感情を回復していきます。子どもの悲しみの過程に寄り添い、ピア・グループ全体をサポートしていくのがレインボウ・ファシリテーターです。レインボウには対象年齢や喪失の内容に対応したさまざまなプログラムがあります。

「シルバーライニング」は自然災害や事故などによる喪失を体験した子どもや大人のためのプログラムです。2011年3月東日本大震災と原発事故によって全町避難を余儀なくされた大熊町の子どもたちの「こころのケア」をするために、このプログラムを5年間にわたって実施しました。ファシリテーター研修を受けて子どもたちの心に寄り添ったのは地域のボランティア、保護者の方々でした。子どもたちとの信頼関係を築きながら彼らを支え、子どもたちのこころの成長に勇気づけられ、こころを癒され大人もまたポジティブな変化をしていきました。今年度で一つの区切りを迎えましたが私たちはこれからも皆さんと共に成長していきたいと願っています。(教育長武内氏の「全町避難の中で」をご覧ください)



スージー・マルタ著「シングルシンフォニー」より

レインボウは枠づけのしっかりしたプログラムです。子どもたちの「こころのケア」に関心をもつ多くの方々に理論的枠組や実施の技法について学んでいただき活用していただきたいとおもいます。一般向けに開催した「レインボウ・ファシリテーター養成講座」は3期目になりましたが、昨年度末に資格取得後も継続して勉強したいという熱意ある修了者を中心に「レインボウ・ファシリテーターの会」が発足しました。大変嬉しいことで、メンバー皆さんの活動を期待しています。

また、これまで児童養護施設の小中学生を対象に実施してきた「プチ里親レインボウ」プログラムについても今年度から、一般に向けて「プチ里親レインボウ・ボランティア養成講座」を開催することになりました。第1回目を下記のように11月に開催いたします。社会的養護を必要とする子どもたちをサポートしたい、里親に関心をもっている、里親になりたい・・・などなど、多くの方々のご理解とご協力をお願いいたします。

### ○ プチ里親レインボウ・ボランティア養成講座

日時：2016年11月13日(日) 10:00~17:00 会場：子ども家庭リソースセンター (昼食は会場でも可)

定員：10名 受講料 10,000円 講師：越智三佳 櫃田紋子

※出張養成講座は、これまでと同じく随時開催いたします。





## 全町避難の中で

福島県大熊町教育長 武内 敏英

東日本大震災、原発事故による全町避難を指示されてから丸5年が過ぎ、ここ会津の地にも6度目の春が巡って参りました。この間、町民が避難生活で全国の皆様には大変お世話になっております。ありがとうございます。

古里大熊町の現状は人っ子一人住めない町となり、家屋はかなり衰弱し、一方、周囲はセイタカアワダチ草を筆頭に雑草が勢いを増し、イノシシなど野生動物が跋扈(ばっこ)しております。

5年前の3月11日の大地震と津波に怯え一夜が明けた途端に、国からの全町避難の指示。子どもたちも例外ではなく、自宅も学校もそして、町も失い、更に「さよなら」も言えず、友だちや地域の人々ともバラバラになってしまったのです。

私たちは避難後、約1ヵ月で市教育委員会の全面的な協力を得て、会津若松市に廃校を借用して幼・小・中学校を立ち上げました。

全町避難という大混乱の中、紆余曲折はありましたが、学校を立ち上げたことにより、子どもたちにとっては友だちと先生との再会を果たすことができ、同時に保護者にとっても安心の場の確保となりました。非常時には大人が子どもたちのために懸命に取り組む姿を見ることが、彼らの心のケアにつながる点からも早急の立ち上げはよかったと思っています。

心のケアを第一にと考え、「国語、算数より心のケア」を教師と保護者の合言葉としました。

こうした時、子ども家庭リソースセンター（以下、センター）から「シルバーラインニングプログラム」が紹介されました。

避難直後から心のケア、サポートに明るい幼稚園教諭を教育委員会に招へい、学校との連携強化を図っていたところでした。早速相談して、プログラムの導入を決めました。

ファシリテーター養成講座もあり、不安ではありましたが、呼びかけに教員、保護者、10数名が手を挙げてくれました。センターから先生方に会津に来ていただき1日ビッシリの日程で、立派なファシリテーターを誕生させていただきました。

以後、プログラムの内容検討などを経て、避難直後の2011年から、小学校2年生を対象に「スマイルタイム」としてスタートできました。当初、学校側も混乱しており、ファシリテーターも理解してもらうまで時間がかかりましたが、徐々にこの点は改善できました。そのきっかけが、子どもたちの次のような声でありました。

「今日はスマイルタイムがあるから楽しい。」



あれから5年、センターの先生方のご指導のもと、子どもたちの実態に沿ったプログラムで継続することができ、多くの宝物を手にすることができました。

まず、子どもたちの笑顔です。これは不安感、孤立感からの解放であり、主体的、協働的学習展開の前提条件になります。次にファシリテーターとしての保護者、教師の成長です。ファシリテーターとしての資質は種々ありますが、子どもの心の声をじっくりと聴く力が一番重要であると思います。混乱の続く中、子どもたちへの指示、命令が多くなりがちなか中、このことを再認識するとともに、この力が一層ついてきています。「大熊町の先生方は子どもに対しての姿勢が柔かい。」第三者のこの言葉が何より嬉しく思います。

避難生活はこれからも続きます。今後とも、子どもたちの心の声（つぶやき、叫び）をていねいに聴くことを大切に、小規模校のよさである一人一人の児童・生徒に、多くの教師、保護者の温かい眼差しと手を差ししのべ、各人の個性・能力を引き出す教育（education）を続けていきたいと考えています。このことが我々の責務です。

福川理事長先生をはじめ関係者の皆様に改めて御礼を申し上げますとともに、これからもよろしくお願ひ申し上げます。





「育つ時に、赤ちゃんの育ちから学ぶ」－伊東市親性準備教育を支援して－

シルバーライニング プロジェクト代表 永田 陽子

家庭や地域で赤ちゃんとお会いする機会が少ない現代では、「赤ちゃんを抱くのは我が子が初めて」の親も珍しくありません。時々刻々変化する子どもの育ちを支える育児を全く経験がない中でスタートしたら、戸惑いや不安は誰もが持ちます。このような育児を防ごうと 2015 年度伊東市親性準備教育がスタートするにあたり、当センターがサポートをしました。

高校生が妊娠・出産・育児について学び、人（自分も含め）の育ちに関心を持ち、将来育児にかかわりやすくすることや安易な妊娠を予防する目的です。静岡県立伊東高等学校 城ヶ崎分校の熱意で、赤ちゃんとのふれあい実習を2回実施しました。私たちはプログラムの作成とインストラクターへのサポート等の役割を担いました。

私たちが心がけたことは、赤ちゃんとのやり取りです。赤ちゃんが人の声掛けや動作を見て受け取っていることを生徒さん達に伝えたいと内容を考えました。

赤ちゃんづれ親子が学校に来て、生徒さんと交流を持つのは初めてのことです。試行錯誤の連続でした。一回目は赤ちゃんを寝せられる量の部屋の柔道場を会場にしました。2月の寒さを考慮し、二回目は暖房設備のある会議室にマットを敷いて実施しました。大きさも丁度よく、集中しやすかったと思います。

表 伊東市親準備性教育

事前授業	「赤ちゃんのはなし」を読み、会う赤ちゃんへのイメージ・関心を高める
交流授業（1回目）	赤ちゃんの誕生のDVD鑑賞 赤ちゃんに会い、交流する
事前授業	会った赤ちゃんの様子を思い出し、2ヵ月後の様子をイメージしてみる
交流授業（2回目）	赤ちゃんに会い、交流する 劇「近い将来おきること」鑑賞

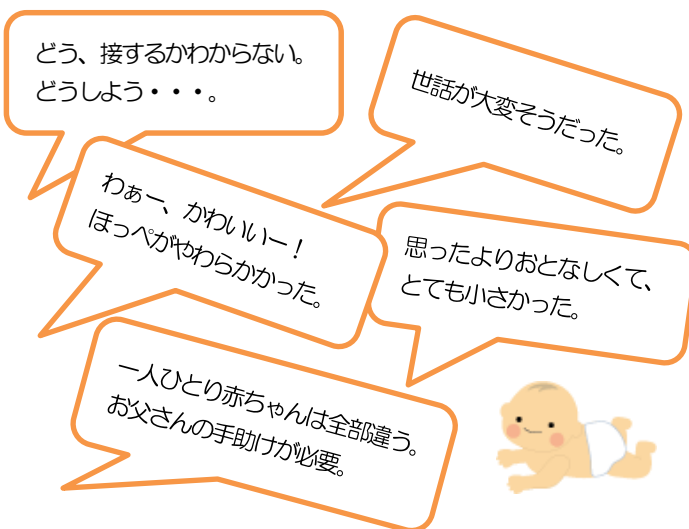


1回目の授業では、出産の大変さをDVDで伝えました。2回目の授業では、子育てには周りのサポートが不可欠なことを生徒さんも加わったスタッフの名演技で伝えるという盛り山なプログラムです。

赤ちゃんとの手遊び「わあー、赤ちゃん、じーつとよく見てるねー」



赤ちゃんの育ちにふれた授業 高校生のつぶやき（1回目）



今回の親性準備教育は、会場の設定や衛生面への配慮、協力親子への心遣い等、大石智子養護教諭の生徒さん達を思う熱い情熱に支えられての授業でした。また、現場で親子に限らず市民を支えている伊東市役所の桜田・杉山保健師、命の誕生の瞬間から親子に寄り添う伊東市民病院の種村・勝倉助産師との連携があつてのことです。それぞれが現場でとらえた課題を地域で共有したこと、次に親となっていく世代を見通した授業をしたことは、画期的な実践です。機関同士の横のつながりを持つことや予防的な視点でのプログラムは、その必要性は言われ



赤ちゃんの育ちにふれた授業 高校生のつばやき (2回目)



お座りが出来るようになっていた。  
赤ちゃんの成長は早いなー。

わあー大きくなったー！  
感情を体で表現していた。



今日は、泣かないかなー！  
(ドキ、ドキ、ハラ、ハラ)



子どもの成長を覚えていて、  
親ってすごいなと思った。

これからどんどん成長して私たち  
みたいになるかと思ったら、不思議  
だなと思った。

ていても、実現化するまで行かないのが日本の現状です。その意味でも、伊東市の実践は貴重な実践と考えられます。学校、病院、市役所各機関の責任者の方々の理解が土台にあることは言うまでもありません。

協力者のママ達は、我が子が高校生にあやしてもらう姿に嬉しさを感じ、我が子にとってもよかったし、自分も高校生の役に立てて嬉しかった。このような機会があったら又協力したいとの感想を寄せてくださいました。

学校関係者の感想は

どんな性教育より  
良かった。

生徒がたくさん感想を書いた。  
自分の勉強にもなった

赤ちゃんが笑った時、  
生徒が共感していた



一回目の授業は、伊東市の地域の新聞(2015年12月15日、伊豆新聞)に取り上げられました。

二回目は地元ケーブルTVで紹介され、親子と生徒さんの交流の様子がメディアで流されました。副校長先生は生徒さんの穏やかな表情をご覧になり、来年度もこの授業を実施したいとインタビューで即答されたそうです。

同校では来年度の授業実施、そして新たに市立中学での導入が決まりました。“育つ時に赤ちゃんの育ちから学ぶ”赤ちゃんとの出会いプログラムが伊東市では着々と広がりつつあります。当センターは今後も伊東市の支援をしていく予定です。





2016年度スケジュール

1. NP体験プログラム オリエンテーション 年4回

第1回 2016/4/17(日)終了、第2回 2016/7/10(日) 募集中、第3回 2016/10/16(日) 募集中、第4回 2017/1/29(日) 募集中  
 時間は全て 13:00~16:00、会場は CFRC。受講料 2,500 円(テキスト代 500 円含)。定員 20 名。申込は、開講 2~1 か月前に CFRC 事務局まで。

2. NP ファシリテーター養成講座 年4回

(1)通常講座 第1期 2016/5/21(土),22(日),28(土),29(日) 講師: 永田陽子 募集中  
 第2期 2016/8/20(土),21(日),27(土),28(日) 講師: 櫃田紋子・石川文子 募集中  
 第3期 2016/11/19(土),20(日),26(土),27(日) 講師: 伊志嶺美津子・大豆生田千夏 募集中  
 第4期 2017/2/18(土),19(日),25(土),26(日) 講師: 福川須美 募集中

(2)出張講座 近年は、長野県上田市、宮城県石巻市、秋田県秋田市、などで開催

※(1)(2)とも時間は全て、前半2日間で9:30~16:30、後半2日間で9:30~17:00、会場は CFRC。受講料 70,000 円(テキスト代 2,000 円および教材費は別)。資格申請される場合は、資格申請料 10,000 円が別途必要です。定員 12 名。申込は、開講 3~1 か月前に CFRC 事務局まで。

3. NPアフタープログラム 年2回 ※養成講座終了後、NPプログラム未実施の方は、3年ごと(推奨2年)にご受講ください

第1回 2016/7/24(日) 募集中、第2回 2017/2/5(日) 募集中  
 時間は全て、フォローアップ研修は 9:30~12:30、ステップアップ研修は 13:30~16:30、会場は CFRC。受講料各 3,000 円。定員各 20 名。  
 申込は、開講 2~1 か月前に CFRC 事務局まで。NPプログラム実施にブランク(~2年間)のある方は、特にご受講をお勧めします。

4. 子ども家庭リソースセンター「NPの会会員」について

- ・NPファシリテーター養成講座修了者は、全員加入です。年会費振込口座は、このページの「寄付のお願い」欄の銀行口座と同様です。
- ・年会費は、1,000 円です。会員期間は 4 月から翌年 3 月までで、年度更新になります。(年会費のご案内は、会報と一緒にお届けします。)
- ・会費は、NPの会会員のへのサポートを強化し、質問・相談に随時応じます。NPにかかわるホームページの運営、会員へのサポートや連絡、NP実践をバックアップするために使われます。
  - ・当センター会報(年2回発行予定)を送付します。
  - ・会員対象の NP フォーラムを年1回開催。
  - ・会員同士の交流、情報交換、ファシリテーション技能のステップアップを図る研修等を行います(予定)。
  - ・事務所を、NPの会会員にも開かれた場になります。ご入会は、CFRC 事務局まで。
    - ・転居ほか、住所や連絡先等が変わる際には、CFRC 事務局まで必ずご連絡願います。

5. レインボウ・ファシリテーター (A) & コーディネーター (B) 養成講座 ~喪失体験をのりこえる子どもたちへの援助~

(A) 2017/3/4(土) 10:00~17:00 受講料 10,000 円 テキスト代 3,000 円 (修了後は、レインボウ・ファシリテーター有資格者となります。)  
 (B) 2017/3/5(日) 13:00~16:00 受講料 5,000 円 テキスト代 1,000 円 (受講対象は、レインボウ・ファシリテーター有資格者です。)  
 会場は全て CFRC。定員各 10 名 講師: 櫃田紋子 / 伊志嶺美津子 募集中 ※出張養成講座は、これまでと同じく随時開催いたします。

6. プチ里親レインボウ・ボランティア養成講座

日時:2016年11月13日(日)10:00~17:00 会場:子ども家庭リソースセンター(昼食は会場でも可) 講師:越智三佳 / 櫃田紋子  
 定員:10名 受講料:10,000円 募集中 ※出張養成講座は、これまでと同じく随時開催いたします。

7. 支援者対象研修「0歳児の愛着を育てる『コミュニケーションスキル』講座」

日時:2016年8月20日(土)13:30~16:00 会場:北とびあ 701(東京都北区王子) 定員:50名  
 参加費含む資料代:一般800円(北区在住・在勤者は500円) その他詳細は CFRC 事務局まで。



●トボスの会(自主的なファシリテーターの会) 年4回

2016年6月、9月、12月、2017年3月、に開催。全て日曜日。時間は13:00~16:00、会場は CFRC。当センターの NP ファシリテーター養成講座修了者は、どなたでも参加できます。(当日会費会員 300 円、非会員 500 円)。トボスの会に関するお問い合わせは、CFRC 事務局まで。

寄付のお願い

昨年度寄付下さった方々 松本 三喜夫様 川島 初江様 長友 肇様 永田 香澄様 どうもありがとうございました  
 【寄付金お振り込み先】 ゆうちょう銀行 口座記号・番号 00130-4-651522 加入者名: NPO子ども家庭リソースセンター

~ ご質問、お問い合わせ等は、下記のCFRC事務局まで ~

NPO 法人子ども家庭リソースセンター (略称: CFRC)

○所在地 〒114-0002 東京都北区王子 2-18-12 ドムス王子 1 階 ○TEL/FAX 03-6755-2855  
 ○E-mail info@kodomokatei.com ○URL http://kodomokatei.com/  
 ○交通機関 JR 線王子駅 北口改札から徒歩 8 分、地下鉄南北線王子駅 5 番出口から徒歩 7 分



編集後記 大自然の脅威が再び私たちのところに暗い影を落としています。今、それぞれが手をつなぎ、  
 明かりをとめていきたいですね。(S)

編集・発行: NPO 法人子ども家庭リソースセンター 発行日: 2016年4月30日

